

平成19年5月11日(金)

発表会資料

高病原性鳥インフルエンザ発生における保健所の健康危機管理対応について



宮崎県中央保健所

○村岡涼子、野口真智子、芝原正文、川畑紀彦

事例の概要

〔所在地〕 宮崎郡清武町

〔飼養状況〕 約12,000羽

〔発生経過〕

平成19年1月10日(水)

養鶏場で250羽死亡

症状:チアノーゼ、顔腫れ

平成19年1月11日(木)

同養鶏場で500羽死亡

簡易キットA型インフルエンザ陽性(15/20羽)



高病原性鳥インフルエンザ疑い事例としての対応開始

(平成19年1月11日 防疫会議資料より抜粋)

〔 防疫作業の経過 〕

防疫作業 1日目

平成19年1月14日(日)
(捕鳥、殺処分)

防疫作業 2日目

平成19年1月15日(月)
(梱包、焼却)

防疫作業 3日目

平成19年1月16日(火)
(焼却、鶏糞処理、鶏舎消毒)

防疫作業 追加

平成19年1月23日(水)
(鶏糞切り返し・消毒等)

〔保健所の活動〕

鳥インフルエンザ発生疑い
情報受理

対策本部設置

	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16
初動活動	初動疫学調査 発生会場準備 住民説明会への対応 相談窓口対応					
防疫作業に係る活動				現場対応体制編成 健康観察 PPE着脱確認		
体調管理		モニタリング 体調不良者への対応				

中央保健所 現地高病原性鳥インフルエンザ対策本部組織体制

総括

本部長(川畑所長)

副本部長

業務総括

(稲田次長)

現場対応統括・現場
連絡調整等

(芝原次長)

総括班

班長
(桜木課長)

連絡調整班

班長
(藤本課長)

疫学調査・
感染症発生動向調査班

班長(藤本課長)
副班長(岡崎主幹)

検体採取班

班長
(平川課長)

消毒・搬送班

班長
(平田課長)

中央保健所 現場対応体制

総括

本部長(川畑所長)

現場統括

(芝原次長)

防疫作業従事者
健康調査班

責任者(岡崎主幹)
副責任者(村岡技師)

防護服適正脱着
確認班

責任者(椎葉主幹)
確認統括(野口係長)

現場救護班

責任者(野口係長)

記録班

責任者(平田課長)
副責任者(吉元主査)

〔 平常時の健康危機管理に対する取り組み 〕

内容	年度			対象
	H 16	H 17	H 18	
関係者との連絡会議	A	A	A	医療機関 家畜保健所等
所内勉強会	A	A	B	職員
マニュアル作成		A	B	各班長
入院病床確保		A	A	医療機関
市町村への説明会		A	A	市町村
シミュレーション訓練		A		職員・国富町 (見学者)他2町

※各内容の企画者： **A** …… 所長、次長、地域保健課 **B** …… 実務準備検討委員会

〔アンケート実施による清武町の事例の状況把握〕

1. 実施方法

対 象

当事例対応の中央保健所職員全員 23名

方 法

アンケート実施(回収率:100.0%)

調査期間

平成19年2月16日～2月23日

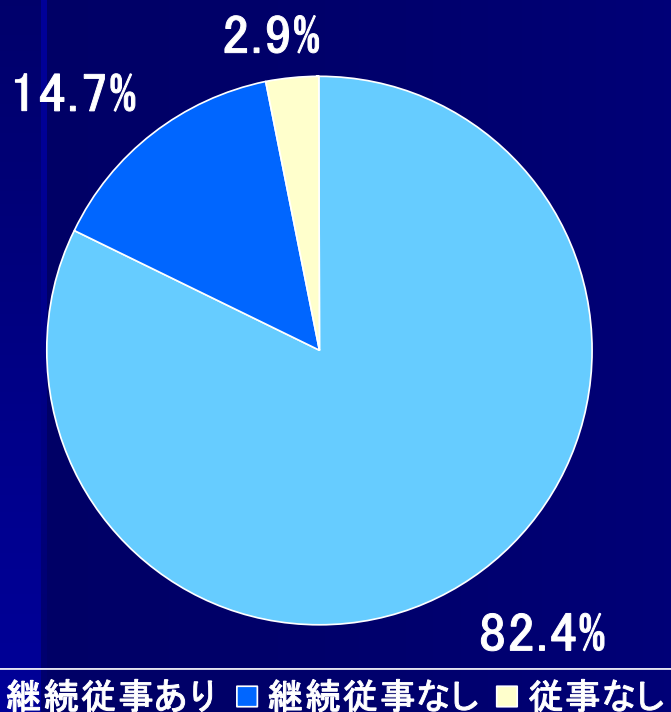
内 容

- ① 作業内容(34項目より日毎に選択)
 - ② 気づき、工夫した点、課題等(担当・担当外の別)
 - ③ 全体的な感想
- ※ ②、③については、記入あるものを1とした。

2. 結果

従事状況

中央保健所職員



支援状況

《 支援者数 》

延べ76名

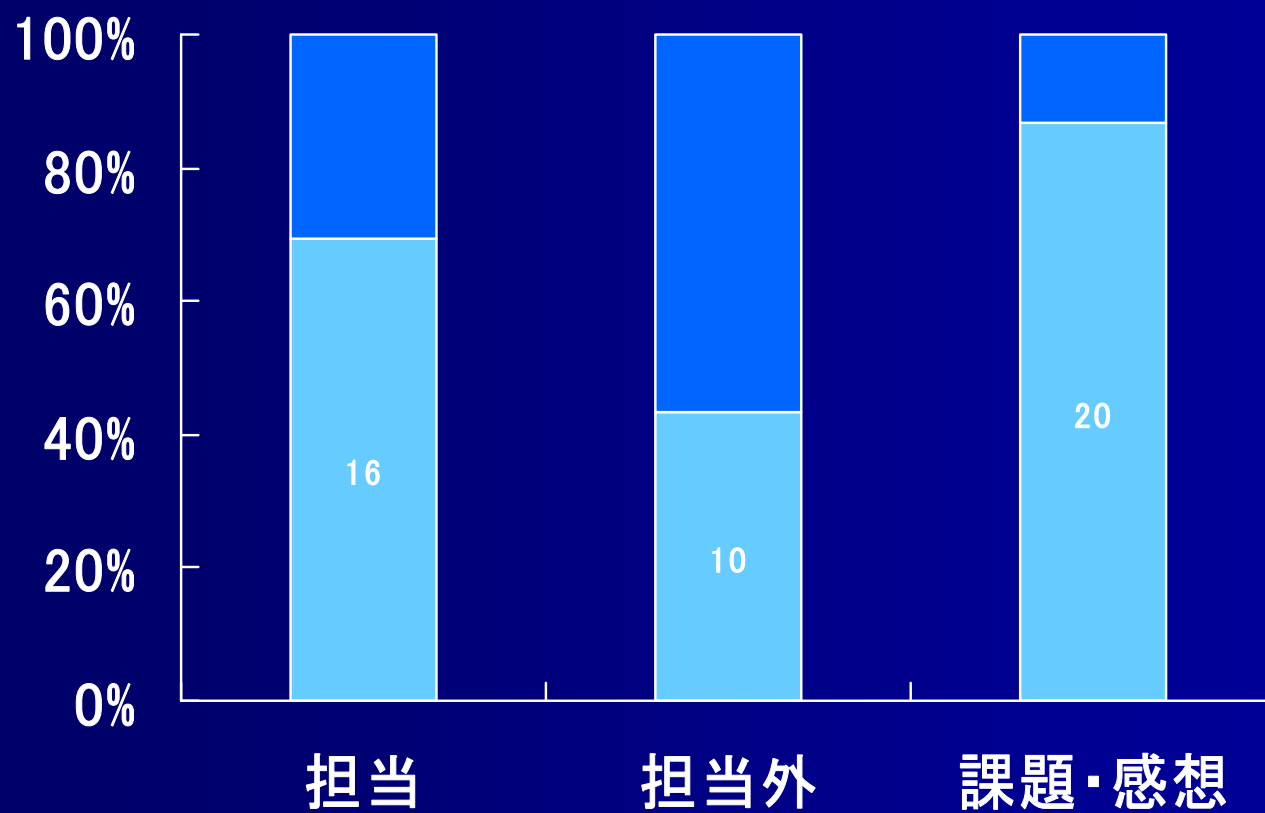
《 1日以上の支援 》

延べ27名 (55.5%)

《 1日のみの支援 》

延べ49名 (64.5%)

課題等の有無



■ 記入有り ■ 記入なし

考察

清武町での円滑な 保健所危機管理対応

積極的に課題に取り組む力を高めていた

発生時

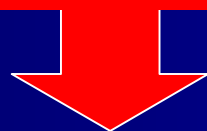
- ① 初動からの所属全員での活動実施
- ② 各従事者の業務役割に対する検討、改善の実施
- ③ 各業務における責任者の見識と統率力

各職員が責任者となりうる能力を構築していた

平常時

- ① 業務推測の容易さ
- ② 職員の知識・意識の向上
- ③ 各職員の業務検討能力の向上
- ④ リーダーシップ性の構築
- ⑤ 所属全体で動くべき問題としての認識の職員への構築・定着

職員一人一人が地域の責任者
としての役割を担っていた



清武町での円滑な健康危機管理活動

おわりに

保健所は

『地域における健康危機管理体制の拠点』である

平成17年6月3日『地域保健対策検討会』(厚労省)より

職員一人一人が、責任者として活動できる
よう取り組んでいかなければならない。